

## 第4学年 国語科学習指導案

日 時：令和4年11月30日（水）

第5校時

対 象：第4学年2組23名

授業者：亀井 信也

会 場：4年2組 教室

### 1 単元名 中心となる語や文を見つけて要約し、調べたことを書こう

教材名 「世界にほこる和紙」（国語・四下 光村図書）

### 2 単元の目標

- (1) 事典の使い方を理解し使うことができる。 【知識及び技能】(2)イ
- (2) 幅広く読書に親しみ、読書が必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くことができる。 【知識及び技能】(3)オ
- (3) 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にし、書き方を工夫することができる。 【思考力・判断力・表現力等】B(1)ウ
- (4) 目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することができる。 【思考力・判断力・表現力等】C(1)ウ
- (5) 言葉や文がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。 【学びに向かう力、人間性等】

### 3 単元で取り上げる言語活動

- (1) 説明的な文章を読み、文章を要約したり引用したりして、分かったことや考えたことを説明する活動（読むこと）
- (2) 調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことをリーフレットに書く活動（書くこと）

### 4 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
① 事典の使い方を理解し使っている。 ② 幅広く読書に親しみ、読書が必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。	① 「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約している。 ② 「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。	① すずんで言葉や文がもつよさに気付き、中心となる語や文を見つけて要約することができる。 ② 積極的に、考えとそれを支える理由や事例との関係について理解し、学習の見通しをもって調べて分かったことなどをリーフレットにまとめて説明しようとしている。

## 4 指導観

### (1) 単元観

本単元は、小学校学習指導要領（平成 29 年告示）第 2 章第 1 節 国語 [第 3 学年及び第 4 学年] を受けて設定した。

#### B 書くこと

(1) 書くことに関する次の事項を身に付けることができるように指導する。

ウ 書くことにおいて、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。

#### C 読むこと

(1) 読むことに関する次の事項を身に付けることができるように指導する。

ウ 目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約すること。

本単元は、「世界にほこる和紙」を読んで、筆者の説明の仕方を捉えたり要約したり、書籍や百科事典などを活用して、伝統工芸について調べたことを自分の言葉でまとめて書く活動を行うという複合単元である。「世界にほこる和紙」は、構成が捉えやすく、考えと理由の関係を捉えたり、中心となる語や文を見付けたりする学習に適している。ここで行う要約の学習は、「思いやりのデザイン」、「アップとルーズで伝える」の単元において学習しているが、本単元では要約する力の定着を図りたい。

### (2) 児童観

#### ① 学びの段階

本学年の児童は、国語の読みに関して、筆者がどのような具体例を挙げて考えを述べているかなどを中心に学んできた。「思いやりのデザイン」、「アップとルーズで伝える」の単元では、筆者の考えとそれを支える理由や事例との関係について理解し、段落同士の関係を確かめながら筆者の考えを捉える学習に取り組んできた。また、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の感想や考えをもち、文章として表現する力も高めてきた。さらに「要約するとき」の学習で、文章を要約することについて学び、現在は高学年で学ぶ、文章の要旨を捉えることにつなげていく前段階である。

#### ② 各種調査の分析

本校第 4 学年の児童の実態を各種調査の結果から分析するにあたり、以下の二点に着目した。

第一は、他者と学び合うことに関する内容、第二は、文章内容を別の言葉で説明することについてである。第一の他者と学び合うことに関する内容については、「児童・生徒の学力向上を図るための調査」（以下「都調査」という。）の結果を分析し、次のようなことが分かった。

ア 令和4年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の結果分析

「他者から学ぶこと」に関する調査項目（4年2組23名）

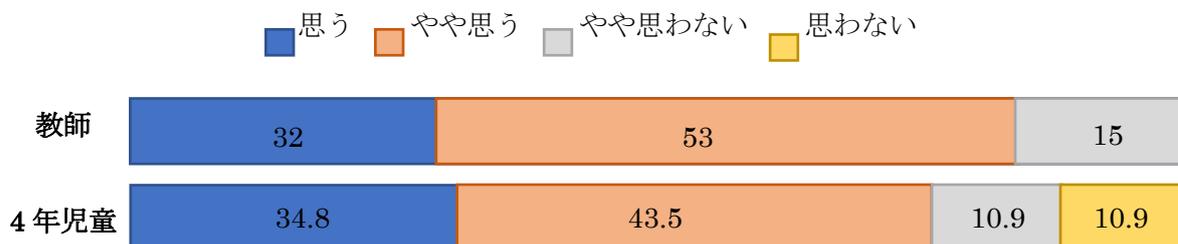
- 4 学習の進め方（教科共通）
- (9) 他の人と意見がちがったときは、質問をして相手の考えを確かめている。  
肯定的回答：否定的回答＝15人：8人
- 6 学習の進め方（国語＜話すこと・聞くこと・書くこと・読むこと＞）
- (2) 他の人の話を聞くときは、メモを取って理解するようにしている。  
肯定的回答：否定的回答＝15人：8人
- (4) 他の人が書いた文章のよい点を取り入れて書くようにしている。  
肯定的回答：否定的回答＝15人：8人
- ※肯定的回答…「当てはまる」又は「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童  
※否定的回答…「当てはまらない」又は「どちらかといえば当てはまらない」と回答した児童

4(9)、6(2)及び(4)から、授業中、友達と学び合う場面で意欲をもって学習できている児童がいることが分かった。その一方で、次のような結果も出ている。

- 4 学習の進め方（教科共通）
- (11) 自分が考えたことを、積極的に他の人や先生に伝えようとしている。  
肯定的回答：否定的回答＝16人：7人
- 6 学習の進め方（国語＜話すこと・聞くこと・書くこと・読むこと＞）
- (6) 文章を読んで理解したことや考えたことなどを他の人に説明している。  
肯定的回答：否定的回答＝14人：9人
- ※肯定的回答…「当てはまる」又は「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童  
※否定的回答…「当てはまらない」又は「どちらかといえば当てはまらない」と回答した児童

全体の3分の2の児童が、他者が考えていることについて、目的をもって確かめようとしていることが分かる。

授業では、自分が理解したことや考えたことを他の人や先生に説明する時間があると思う。



＜教師＞「児童が理解したことや考えたことを、他の児童や教師に説明する活動を取り入れている。」との比較である。否定的な回答をした児童が約2割おり、上記2項の実態から既習事項の確認や類似問題の演習に十分な時間を確保する必要がある一方で、学んだことを他者へ発信することが自身の理解を深めるのに最適であることを鑑みて、1単位時間の中に少しでも、解法を友達に伝えたり、友達の解法を聞いて自分と比較したりという活動も積極的に取り入れていく必要がある。時間短縮や、他者との関りが苦手な児童のために、一人1台端末を利用し、互いの考えを端末上で伝え合えるような活動を積極的に取り入れていく必要がある。

## イ 教員意識調査の結果分析

授業では、特定の教科に限らず、友達と考えを交流することで最適な学びとなるような学習方法を取り入れてきてはいるが、勉強は先生から教わるものであり、子ども同士で学びを深めるものだという認識が足りない児童もいることが分かる。それに対し、教師側の他者が関わる学習活動についての認識はどうか、令和4年度「都調査」学校調査アンケートから分析した。

令和4年度「都調査」を基にした教員アンケート (%)

8. 児童同士が考えを交流しながら課題を解決する活動を取り入れている。

思う：やや思う：やや思わない：思わない=53 : 32 : 15 : 0

9. 児童同士が理解したことを、他の児童や教師に説明する活動を取り入れている。

思う：やや思う：やや思わない：思わない=32 : 53 : 15 : 0

この結果から、本校の教師が、児童同士が考えを交流しながら課題を解決する活動を積極的に取り入れていることが分かる。しかし、他の児童や教師に説明する活動を取り入れているかという質問になると、「やや思う」の結果が多くなっていることから、学んだことを他者へ発信することで、理解の定着や価値付けを行っていきけるような指導の工夫に課題があると考えられる。

次に、文章内容を別の言葉で説明することについてである。福生市の学力調査で、以下のようなことが分かっている。

## ウ 「福生市学力学習調査」の結果分析

### 文章内容を別の言葉で説明する力に関する分析

福生市の学力調査

小学4年国語設問別正答率 (%)

大問・小問上 設問項目	本校	D層	C層	B層	A層
3・3 文章の内容を説明した文の空欄に入る言葉を書く	16.7	25.0	33.3	8.3	0.0
5・3 本を紹介する文章の空欄に入る言葉を書く	14.6	41.7	16.7	0.0	0.0

この調査から文の中で大切になる言葉を見付ける、要点の抽出、要約する、文をまとめるということが非常に苦手であるということが分かる。また、別の言葉に言い換えて説明することを苦手としている児童が多いと推測できる。

以上の分析結果から、文章を読んで理解するための基礎的・基本的な学習方法を身に付けさせ、理解したことについて自信をもって他者に伝える意識をもたせていきたい。また、文章を要約するためには、文章の内容を正確に把握した上で、文章の内容を短くまとめる必要がある。そこで、文章から要約に必要な語や文を見付ける方法や、それが本当に正確な理解なのかを吟味し、より確実な知識となるような活動を取り入れていくことにより、理解できた知識を他者へ伝えながら学習を深めることができると考えられる。

## (3) 教材観

本単元は、1学期に学んだ筆者の考えを捉え、自分の考えを発表する学習を発展させ、中心となる語や文を捉えて要約する学習を行う。具体的には、説明文の学習で身に付けた力を生かし、伝統工芸に関して本などで調べたことを友達に伝える活動を行う。単元の後半では、伝統工芸のよさを

リーフレットにまとめる活動が設定されていることで、説明文をどのように読み、そこで得た力をどう生かすか、百科事典や本などから情報をどのように得て、整理し、自分の書くものに用いていくかなど、目的をもって学習に取り組み、主体的・対話的な学習を行うことが期待できる。

また、国語科の学習と関連付け、日本の伝統工芸に対する関心を高めるために、図画工作科で和紙づくりを行う。実際に材料に触れ、紙すきの体験を行うことで、作り方や和紙の特徴について関心をもてるようにする。この体験をきっかけに、国語科で伝統文化についての説明文を読む学習を行うことに加え、伝統工芸について文章を書く学習に繋げていく。

「世界にほこる和紙」を読む学習では、文章を読み込んだり、要約したりする手だてとして、本文の和紙のよさや特徴等に線を引くことや、個人でキーワード（中心となる語）を抜き出し、グループで読み合ったり、伝えあったりして、必要な部分をピックアップする活動を行っていく。

伝統工芸について各自が調べたことを要約する学習では、「中心となる語や文は何か」、「元の文章の組み立てを生かしたり、言葉を接続したり、言い換えの言葉を用いたりして、短くまとめられているか。」について発表した際に聞き手に分かりやすく伝える工夫を具体的に考えられるようにしていく。実際に発表する場では、自分が伝えたい本の内容を、聞き手を意識した伝え方の工夫をしてまとめ、聞き手からよかったところを発表してもらったりする中で、単元のめあて（要約の仕方・述べ方の工夫）についての相互評価ができるようにする。

リーフレットにまとめる学習では、教科書の教材文、関連書籍から「筆者が読み手に伝えたいことは何か」「どのような事例を取り上げているのか」、「なぜこのような述べ方をしているのか」など、問いをもちながら読み進めることで、読み手を意識した文章の書き方やまとめ方を身に付けることができるようにする。

## 5 研究主題との関連

### (1) 研究主題

学びに向かう力を育むための指導の在り方を考える  
～「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の分析を通して～

### (2) 研究主題を受けた目指す児童像

○自らの学習を調整しながら、粘り強く、課題に取り組むことができる子

[学びに向かう力が育成された児童の姿]

ア 課題に対して試行錯誤しながら諦めずに取り組むことができる。

イ 課題に取り組む際に、自分である程度の見通しをもって取り組むことができる。

### (3) 目指す児童像に迫るための研究仮説

「児童・生徒の学力向上を図るための調査」から、児童の実態を把握し、実態に適した学習内容の工夫をすることで、児童が主体的に学習に取り組むようになるであろう。

### (4) ESD の視点に立った学習指導で重視する能力・態度、目指す児童像に迫るための手だて

①課題を正しく捉え、それに向けて適切な解決を図ろうとする態度

○学習活動の工夫

・本単元では導入の際に、学習の見通しをもたせる。何を目的に学習し、そのためにどんな力が必要なのかを明確にして、目的をもって学習に取り組めるようにする。

(未来像を予測して計画を立てる力・進んで参加する態度)

・要約に必要な語や文を見付けるときは、写真や絵図などと文章を照らし合わせて読ませる。その後、モデルを示しながら、要約させる。要約の際には、内容を伝える相手意識・目的意識をもたせ、要約の分量を加減する目安にする。

(多面的・総合的に考える力)

○教科横断的な学習の展開

・伝統工芸に興味をもたせるために、図画工作科において実際に和紙づくりを体験したり具体物に触れたりする活動を取り入れる。児童の関心の高い図画工作科の単元と関連を図ることで、自分の考えをもって課題に取り組むことができるようにする。

(多面的・総合的に考える力・つながりを大切にすること)

○ICT 機器の活用

・教師が百科事典などの資料から厳選した情報を、タブレット型端末を通して児童に送ることで、情報を正確に読み取り、整理して書けるようにする。

(多面的・総合的に考える力)

② 確実な理解を深めるために、意欲的に友達と交流しようとする態度

○ 対話的な学びの場

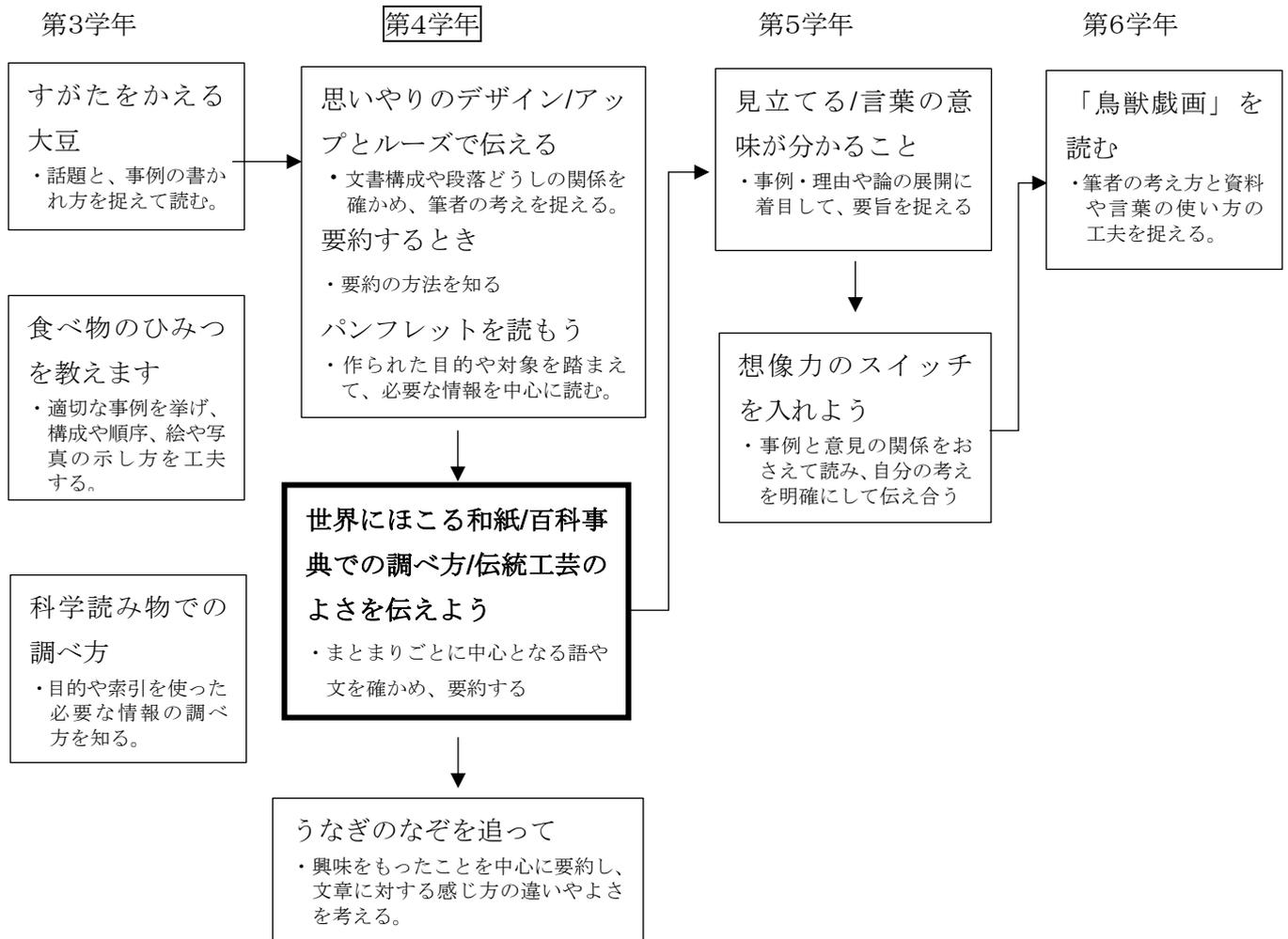
児童が自分の考えを深めたり、どのように中心となる語や文を見つけたか、選んだ理由は何かを分かりやすく友達に説明したりするために、話し合いの活動を行う。自分の考えを明確にし、それと比較しながら友達の意見を聞くことで、自分とは違う見方や考え方に気付かせていく。さらに気付いたことをグループや全員で共有し、対話しながら「要約する方法」を見つけていく場面を設定する。  
(コミュニケーションを行う力)

③ 発表やリーフレット作りを意識した学習活動の展開

児童自身に関心をもつ伝統工芸品のよさについて書かれた文章要約したり、リーフレット作りをしたりすることを中心に学習計画を立てる。発表や表現活動を意識することで要約に必要な語や文の精選をする。この活動を通して、児童なりの計画性をもった活動ができるようにする。

(未来像を予測して計画を立てる力)

6 年間指導計画における位置付け



7 単元の指導計画と評価計画(全16時間扱い)

	時	学習目標	学習活動	評価規準(評価方法)		
				ア	イ	ウ
第一次	第1時	伝統工芸について関心をもつとともに、学習の見通しをもち、学習計画を立てることができる。	① 伝統工芸について、知っていることを発表する。 ② 地域の伝統工芸について知る。 ③ 単元のめあてを確認し、学習計画を立てる。			① (発言)
第二次	第2時	「世界にほこる和紙」を読んで大まかな内容を捉え、文章全体を「初め」「中」「終わり」に分けることができる。	① 全文を読み、おおまかな内容を捉える。 ② 段落を確かめ、文章全体を「初め」「中」「終わり」に分ける。		① (ノート・発言)	
	第3時	「中」を二つのまとまりに分け、筆者の考えの理由となる二つのことを読み取ることができる。	① 「中」を大きく二つに分ける。 ② 「中」に述べられている二つの理由を読み取る。			① (ノート・発言)
	第4時	「中」で、どのような事例が何を説明するために述べられているのかを読み取ることができる。	① 「中」で挙げられている例を確認し、何を説明するために挙げられているのかを考える。 ② 「中」で挙げられた事例が、どんなことを伝えるために挙げられていたのかを整理する。			② (ノート・発言)
	第5時	「初め」「中」「終わり」のまとまりごとに中心となる語や文を捉え、文を要約することができる。	① 「初め」「中」「終わり」のまとまりごとに、中心となる語や文を考え、整理する。 ② 「世界にほこる和紙」を要約する。 ③ 書いた要約文を友達と読み合う。		① (ノート・発言)	

	第6時 (本時) ・7時	伝統工芸に関する本について、伝統工芸のよさを中心に要約することができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 伝統工芸に関する本について、伝統工芸のよさが書かれているところを中心に要約する。</li> <li>② 書いた要約文をグループで読み合い、感想を伝え合う。</li> <li>③ 「百科事典での調べ方」を読み、百科事典の利用の仕方を知る。</li> </ul>		① (ワークシート)	
第三次	第8時	リーフレットを作ることに意欲をもち、取り上げる題材を選ぶことができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 調べたい伝統工芸を決める。</li> <li>② 何を、どのように調べるかを考える。</li> </ul>			① (リーフレット)
	第9・10時	伝統工芸について調べ、必要な情報を整理することができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 取り上げる伝統工芸について、さまざまな方法で調べる。</li> <li>② 調べたことをまとめ、リーフレット作りに必要な情報を整理する。</li> <li>③ 整理した情報を、友達と紹介し合う。</li> </ul>	① (リーフレット)	② (リーフレット)	
	第11・12時	リーフレットに載せる文章の組み立てや資料を考慮することができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 文章の組み立てを考える。</li> <li>② 文章に添える写真や絵について考える。</li> <li>③ 考えた組み立てを友達と交流し合う。</li> </ul>	② (リーフレット)	② (リーフレット)	② (リーフレット)
	第13時	調べたことを基に、必要な情報や文章構成を考えながらリーフレットに載せる文章の下書きをすることができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 伝統工芸のよさを伝える文章の下書きを書く。</li> <li>② 書いた文章を推敲する。</li> </ul>			② (リーフレット)
	第14・15時	レイアウトを工夫して、リーフレットを完成させることができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>① リーフレットの2・3ページを作る。</li> <li>② リーフレットの表紙、裏表紙を作る。</li> <li>③ リーフレットをペアで読み合う。</li> </ul>		② (リーフレット)	② (リーフレット)
	第16時	友達とリーフレットを読み合い、感想を交流することができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>① リーフレットを読み合い、感想を交流する。</li> <li>② 単元の学習を振り返り、これからの生活や学習につなげる。</li> </ul>		② (発言)	② (発言)

## 8 本時（全16時間中の第6時）

### （1）本時の目標

伝統工芸に関する本について、伝統工芸のよさを中心に要約することができる。

### （2）本時の展開

時間	○学習活動 ・予想される児童の考え	◇指導上の留意点 ◆配慮事項	評価規準 (評価方法)
導入 (5分)	○本時のめあてを確認する。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">                     伝統工芸のよさが書かれているところを中心に要約して伝え合おう。                 </div>		
展開 (35分)	○要約の方法を確認する。 ・教科書の説明文で要約をしたな。 ・要約するときは、中心となる語や文を確かめるといい。 ・分量を考えて、短くまとめるのが難しいな。  ○選んだ本について、 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">伝統工芸のよさ</span> が書かれているところを中心に要約する。 ・伝統工芸の <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">よさ</span> が書かれているのはどこかな。 ・伝統工芸の歴史・材料・技法・作り方が書いてある。 ・どれが伝統工芸のよさなのかな。 ・  ○書いた要約文をグループで伝え合おう。 ・友達の書いた要約文は伝統工芸のよさが伝わるな。	◇要約についての掲示物を貼り、視覚的に確認できるようにする。  ◇言葉を変えることで、伝えたいことの意味が変わってしまわないように、注意させる。  ◇ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">よさ(他と比べてすごいところ)</span> について中心となる語(キーワード)や文に線を引かせる。 ◇なるべく短くまとめさせる。 ◇児童が読み取った伝統工芸のよさをまとめるよう言葉を掛ける。 ◆要約することに関して、苦手意識をもっている児童を事前に把握しておき、要約の方法を確認しながら個別で指導する。 ◇初めて知ったことや気付いた伝統工芸のよさ、疑問点などを伝えさせる。 ◆考えの伝え方を例示する。	イ-① (ワークシート・発言)  ウ-① (ワークシート・発言)
まとめ (5分)	○学習を振り返り次時の見通しをもつ。 ・今日、要約したことを使えばリーフレットが作れそうだ。		

(3) 授業観察の視点

- ・「世界にほこる和紙」で学んだ要約の仕方が生かされているか。
- ・要約することが文章を読んで理解することにつながっているか。
- ・書いた要約文をグループで発表し合うことが学びを深めることになっているか。

(4) 板書計画

<p>要約の仕方 要点となるところに線を引く。 中心となる語（キーワード）を確かめる。 文を省略する。 文の終わりを変える。</p>	<p>本の見開きの例</p> <p>ノートの書き方の例</p>	<p>めあて</p> <p>伝統工芸のよさを伝えよう</p> <p>伝統工芸のよさについて、よさが書かれているところを中心に要約し読み合おう。</p>
--	---------------------------------	---